

美術専攻 環境デザイン研究領域

ライ エイ ホウ

頼 盈方



「WalkingGuide」_ フェミニズムの発展軌跡における
都市空間・建築への影響と今後の発展に向けた研究

模型(ニューマット台紙、グレー台紙、ステンレスバネ線、アクリル板、プラ棒など)、
パネル

「WalkingGuide」_ フェミニズムの発展軌跡における都市空間・建築への影響と今後の発展に向けた研究

本研究は、フェミニズムの視点から都市空間を再考し、性別や年齢を超えて多様な人々にとって利用しやすい都市空間のあり方を明らかにすることを目的とする。

女性の権利や立場に着目しつつも、特定の属性のみを強調するのではなく、女性や弱者の視点を通して都市空間を検証することが、結果として他の社会的グループにとっても有効な空間形成につながる可能性に着目している。本研究では、こうした視点を一時的な社会的主張として扱うのではなく、都市空間の読み取り方や計画の方法そのものとして捉えることを重視している。

時代の変遷に伴い、文化や価値観、生活様式は変化してきた。こうした変化は人々の日常的な行動や空間の使われ方にも反映されており、都市空間はその影響を最も直接的に受ける場の一つであるといえる。特に商店街は、生活に密接した公共空間として、人々の行動や関係性、地域の雰囲気を通じて、その時代性を読み取ることができる重要な対象である。

そこで本研究では、都市における公共空間の課題を整理した上で、吉祥寺・中道通りを調査および提案の対象地として選定した。

研究方法としては、文献調査やインタビューを通じて抽出したジェンダーと都市空間に関する視点をもとに、街路の中から複数の場所を選定し、六つの提案コンセプトを設定して空間のあり方を検討している。これらの提案は、異なる背景や価値観を持つ人々が街路を利用する過程において、対立しているように見える視点が必ずしも明確に分離されるものではなく、相互に重なり合いながら共存し得る可能性を示すことを目的としている。

本研究は、具体的な完成形を提示することよりも、街路空間に潜在する可能性を丁寧に読み取り、それを可視化することに重点を置いている。こうした試みを通して、今後の都市空間の計画や段階的な実装、さらには地域との対話へとつながるための理論的・実践的な基盤を提示するものである。